

鹿児島県から得られたエボシダイ科魚類エボシダイ

畑 晴陵¹・伊東正英²・本村浩之³

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科

² 〒 897-1301 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦 718

³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

エボシダイ科魚類は鋤骨、口蓋骨および基鰓骨に細かな歯を有すること、尾柄部が側扁し側面に隆起を欠き、尾柄高が体長の5%以上であること、背鰭と臀鰭の軟条数はともに15以上であること、体側鱗が円鱗であることなどで特徴づけられる (Haedrich, 1967; Haedrich and Horn, 1972; Last, 2001). 本科魚類は日本からはオキメダイ *Cubiceps baxteri* McCulloch, 1923, ユメオキメダイ *C. paradoxus* Butler, 1979, ホソオキメダイ *C. pauciradiatus* Günther, 1872, ボウズコンニャク *C. whiteleggii* (Waite, 1894), エボシダイ *Nomeus gronovii* (Gmelin, 1789), クラゲウオ *Psenes arafurensis* Günther, 1889, スジハナビラウオ *P. cyanophrys* Valenciennes, 1883, シマハナビラウオ *P. maculatus* Lütken, 1880, およびハナビラウオ *P. pellucidus* Lütken, 1880 の9種の分布が確認されている (中坊・土居内, 2013). そのうちエボシダイの鹿児島県における記録は乏しく、長島列島からのものだけに限られていた (並田, 1977; 中坊・土居内, 2013).

2016年5月18日に薩摩半島西岸から1個体のエボシダイが採集された. 本標本は本種の鹿児島

県薩摩半島における初めての記録ならびに鹿児島県における標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する.

■ 材料と方法

計数・計測方法は Haedrich (1967) にしたがった. 標準体長は体長と表記し、体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった. エボシダイの生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された鹿児島県産の標本 (KAUM-I. 89898) のカラー写真に基づく. 標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

■ 結果と考察

Nomeus gronovii (Gmelin, 1789)

エボシダイ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 89898, 体長 103.7 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦崎ノ山東側 (31°25'44"N, 130°11'49"E), 水深 27 m, 2016年5月18日, 定置網, 伊東正英.

記載 背鰭条数 XI-I, 26; 臀鰭条数 V, 26; 胸鰭軟条数 21; 腹鰭条数 I, 5; 鰓耙数 8 + 1 + 15 = 24.

体各部測定値の体長に対する割合 (%) : 全長 135.5; 頭長 27.8; 胸鰭長 35.9; 腹鰭長 25.7; 背鰭第1棘最長棘長 (第4棘) 12.4; 背鰭前長 33.0; 臀鰭前長 56.3; 体高 26.1; 尾柄高 8.5; 眼径 6.5; 上顎長 6.3; 眼隔域幅 6.1.

Hata, H., M. Itou and H. Motomura. 2017. First record of *Nomeus gronovii* (Perciformes: Nomeidae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 43: 193-196.

✉ HH: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).



Fig. 1. Fresh specimen of *Nomeus gronovii*. KAUM-I. 89898, 103.7 mm standard length, Kasasa, Minami-satsuma, Kagoshima Prefecture, southern Japan.

体は前後方向に長い長楕円形で側扁し、体高は背鰭第10棘起部で最大。体背縁は吻端から背鰭第10棘起部にかけて緩やかに上昇し、そこから第2背鰭基底後端にかけて緩やかに下降する。体腹縁は下顎先端から鰓蓋後端直下にかけて緩やかに下降し、そこから臀鰭起部にかけては直線状を呈し、体軸と並行となる。臀鰭基底腹縁は直線状を呈し、緩やかに上昇する。尾柄部は背縁と腹縁ともに直線状を呈し、体軸に平行。胸鰭基底上端と胸鰭基底下端は鰓蓋後端よりも僅かに後方、背鰭第3棘起部直下にそれぞれ位置する。胸鰭後端は丸みを帯び、背鰭第9軟条起部直下、臀鰭第6軟条起部直上に達する。腹鰭起部は胸鰭第2軟条起部直下に位置し、腹鰭基底後端は胸鰭基底下端より僅かに前方に位置する。腹鰭最後軟条は体と鰭膜でつながる。たまた腹鰭の後端は臀鰭起部よりも僅かに後方に達する。体腹面には腹鰭をたためる溝がある。背鰭起部は腹鰭起部より僅かに前方に位置し、背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上に位置する。臀鰭起部は背鰭第1軟条起部直下に位置する。尾鰭は二叉型で深く湾入する。肛門は正円形を呈し、臀鰭起部前方に位置する。眼と瞳孔はともに正円形。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し、吻端に位置する。前鼻孔は正円形を呈し、後鼻孔は背腹方向に長い楕円形。両

鼻孔に皮弁は無い。口は小さく端位。上顎後端は眼の前縁よりも前方に位置する。前鰓蓋骨と鰓蓋骨後縁はともに円滑。前鰓蓋骨屈曲部から前鰓蓋骨下縁は鋸歯状。鰓耙は細長い。鰓弁は細長いフィラメント状。体は細かく、薄い円鱗に被われる。背鰭前方鱗被鱗域の先端は両眼の先端を結んだ線よりも前方に達する。頬部に微小な被鱗域を有し、その先端は眼の中央より僅かに後方。両顎と口蓋骨には細い小円錐歯が1列に並ぶ。鋤骨には小円錐歯が密生する。舌には歯が無い。側線は完全で、鰓蓋上方から始まり、体背縁と平行に尾鰭基底にかけて入る。

色彩 生鮮時の色彩 — 体背面から体側上部は青みがかった黒色を呈し、体側中央から体腹面にかけては明るい白色。体側上部には眼よりも大きい黒色斑が2個ある。背鰭基底後端から尾柄にかけて、体を横断する黒色横帯が2本はいる。体側下部には眼と同大かあるいはそれより小さい黒色斑が散在する。背鰭各鰭条間の鰭膜は黒色を呈し、各鰭条は白色。胸鰭は黒色を呈し、下部の3分の1程度が白色。腹鰭は一様に黒色を呈し、各軟条間の鰭膜に白色斑がはいる。臀鰭は明るい白色を呈し、黒色斑が3個はいる。尾鰭は黒色を呈し、後縁は白色に縁取られる。尾鰭基底に黒色斑が横に2つ並ぶ。虹彩は銀白色。

分布 三大洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布する (Haedrich, 1967; Haedrich and Horn, 1972; Ahlstrom et al., 1976; Suda et al., 1986; 岡村, 1997; Last, 2001; Blaylock et al., 2004; Ho et al., 2010; 中坊・土居内, 2013; Lee et al., 2015; Chen and Thang, 2015). 日本国内では小笠原諸島, 福島県小名浜から土佐湾にかけての太平洋岸, 長崎県野母崎および鹿児島県長島列島から報告されていたが (塩垣・道津, 1973; 並田, 1977; Shinohara et al., 2001; 茨城の海産動物研究会, 2004; Senou et al., 2006; 中坊・土居内, 2013), 本研究により, 鹿児島県薩摩半島西岸における分布も確認された.

備考 鹿児島県産の標本は, 体高が体長の26.1%であること, 舌に歯が無いこと, 体と尾鰭に黒色斑があること, 背鰭前方鱗被鱗域の先端が両眼の先端を結んだ線よりも前方に達すること, 臀鰭軟条数が26であること, 腹鰭起部が胸鰭第2軟条起部直下に位置すること, Haedrich (1967), Hardrich and Horn (1967, 1972), Last (2001), Ho et al. (2010), および中坊・土居内 (2013) の報告した *N. gronovii* の標徴とよく一致したため, 本種と同定された.

内田 (1931) は, *N. gronovii* がカツオノエボシ *Physalia physalis* (Linnaeus, 1758) に随伴する習性を報告すると同時に, *N. gronovii* が日本沿岸でも時折採集されることを報告したが, 和名は与えておらず, また詳細な産地に関する言及もしていない. 阪本 (1931) は, 千葉県鴨川市太海から得られた本種の幼魚 (全長 73 mm) を報告し, これが本種の標本に基づく初めての日本沿岸からの記録と思われる. 同時に, 彼は本種に対し和名「えぼしだひ」を提唱した. その後, エボシダイは, 小笠原諸島伊島, 茨城県 (茨城の海産動物研究会, 2004), 久慈川河口沖 (茨城の海産動物研究会, 2007), 千葉県銚子 (Suda et al., 1986), 館山市相浜 (Miya et al., 1994), 東京湾 (Suda et al., 1986), 神奈川県横須賀市佐島 (林, 1982), 静岡県伊東市富戸 (吉野, 2008), 下田市白浜竜宮島 (松岡, 1972), 清水 (Suda et al., 1986), 三重県英虞湾 (鈴木・片岡, 1997), 土佐湾 (宇井, 1924; Kamohara, 1958), および長崎県野母崎町 (塩垣・

道津, 1973) などから報告されている. しかし, 鹿児島県内における本種の記録は少なく, 並田 (1977) によるもののみである. 彼は長島列島諸浦島・伊唐島の間から採集された全長 65.5 mm の本種 1 個体の形態に関して詳細な記載をおこなったが, その標本は残されていない. その他, 本種は鹿児島湾 (今井・中原, 1969), 宇治群島 (Motomura et al., 2015), 大隅諸島屋久島 (Motomura et al., 2010), 薩摩硫黄島, 竹島 (本村ほか, 2013), 奄美群島与論島 (本村・松浦, 2014) など, 鹿児島県内各地における大規模な魚類相調査においても報告されていない. したがって記載標本は本種の鹿児島県薩摩半島における初めての記録ならびに鹿児島県における標本に基づく初めての記録となる.

エボシダイの幼魚は内田 (1931) や沖山 (1961), 並田 (1977), 鈴木・片岡 (1997), および中坊・土居内 (2013) などによって報告されている通り, カツオノエボシに付随することが知られているが, 第2著者の観察によると記載標本の採集時, カツオノエボシは採集されず, 単独で泳いでいた可能性が高い. エボシダイの幼魚はカツオノエボシ以外にも, 海面に浮遊するゴミなどに付随することが松岡 (1972) や吉野 (2008) などによって報告されており, 記載標本もこれらに付随していたと思われる.

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり, 鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた. 本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた. 本研究の一部は笹川科学研究助成金 (28-745), JSPS 研究奨励費 (DC2: 29-6652), JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸

島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

引用文献

- Ahlstrom, E. H., Butler, J. L. and Sumida, B. Y. 1976. Pelagic stromateoid fishes (Pisces, Perciformes) of the eastern Pacific: kinds, distributions, and early life histories and observations on five of these from the northwest Atlantic. *Bulletin of Marine Science*, 26 (3): 285–402.
- Blaylock, R. B., Bullard, S. A. and Whipps, C. M. 2004. *Kudoa hypoeicardialis* n. sp. (Myxozoa: Kudoidae) and associated lesions from the heart of seven perciform fishes in the northern Gulf of Mexico. *Journal of Parasitology*, 90 (3): 584–593.
- Chen, D. and Zhang, M. 2015. *Marine fishes of China*. China Ocean University Press, Qingdao. 2154 pp.
- Haedrich, R. 1967. The stromateoid fishes: systematic and a classification. *Bulletin of the Museum of Comparative Zoology*, 135: 31–139.
- Haedrich, R. L. and Horn, M. H. 1972. A key to the stromateoid fishes. *Woods Hole Oceanographic Institution Technical Report*, 1972 (3): 1–46.
- 林 公義. 1982. 横須賀市佐島 天神島・笠島沿岸の魚類(V). *横須賀市博物館報*, 28: 11–13.
- Ho, H.-C., Chiang, W.-C., Shao, K.-T. and Chang C.-W. 2010. Description of four new records and a key to the stromateoid fishes in Taiwan. *Journal of the Fisheries Society of Taiwan*, 37 (4): 253–262.
- 茨城の海産動物研究会. 2004. 茨城北沿岸域を中心とした魚類. Pp. 429–449. ミュージアムパーク茨城県自然博物館(編), 茨城県自然博物館第3次総合調査報告書. ミュージアムパーク茨城県自然博物館, 坂東.
- 茨城の海産動物研究会. 2007. 久慈川河口沖合を中心とした魚類. Pp. 409–430. ミュージアムパーク茨城県自然博物館(編), 茨城県自然博物館第4次総合調査報告書. ミュージアムパーク茨城県自然博物館, 坂東.
- 今井貞彦・中原官太郎. 1969. 錦江湾海中公園候補地の魚類相. Pp. 51–82. 鹿児島県(編), 霧島・屋久国立公園錦江湾海中公園調査書. 鹿児島県, 鹿児島.
- Kamohara, T. 1958. A catalogue of fishes of Kochi Prefecture (Province Tosa), Japan. *Reports of the Usa Marine Biological Station*, 5 (1): 1–76.
- Last, P. R. 2001. Nomeidae Driftfishes (cigarfishes). Pp. 3771–3779 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. eds. *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals*. FAO, Rome.
- Lee, S.-J., Kim, J.-K., Lee, W.-C., Kim, J.-B. and Kim, H. C. 2015. New records of *Nomeus gronovii* (Pisces: Nomeidae) from Korea. *Fisheries and Aquatic Sciences*, 18 (3): 317–320.
- 松岡玳良. 1972. 伊豆下田白浜竜宮島付近の磯にいられる魚類. *静岡県水産試験場研究報告*, 5: 89–111.
- Miya, M., Higashitarumizu, E., Gono, T., Sunobe, T. and Mochizuki, K. 1994. Fishes of the Boso Peninsula, central Japan I. *Journal of the Natural History Museum and Institute, Chiba*, 3 (1): 109–118.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一(編). 2013. 鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 390 pp.
- Motomura, H., Habano, A., Arita, Y., Matsuoka, M., Furuta, K., Koeda, K., Yoshida, T., Hibino, Y., Jeong, B., Tashiro, S., Hata, H., Fukui, Y., Eguchi, K., Inaba, T., Uejo, T., Yoshiura, A., Ando, Y., Haraguchi, Y., Senou, H. and Kuriwa, K. 2015. The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. *Memoirs of Faculty of Fisheries Kagoshima University*, 65: 10–34.
- Motomura, H., Kuriwa, K., Katayama, E., Senou, H., Ogihara, G., Meguro, M., Matsunuma, M., Takata, Y., Yoshida, S., Yamashita, M., Kimura, S., Endo, H., Murase, A., Iwatsuki, Y., Sakurai, Y., Harazaki, S., Hidaka, K., Izumi, H. and Matsuura, K. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Pp. 65–247 in Motomura, H. and Matsuura, K., eds. *Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 本村浩之・松浦啓一(編). 2014. 奄美群島最南端の島一与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 648 pp.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013. エボシダイ科. Pp. 1081–1083, 2041–2042. 中坊徹次(編). *日本産魚類検索 全種の同定, 第三版*. 東海大学出版会, 秦野.
- 並田正和. 1977. 長島水産実験所周辺の魚類相. 鹿児島大学水産学部修士論文, 鹿児島. 250 pp., 12 pls.
- 岡村 収. 1997. エボシダイ *Nomeus gronovii*. P. 663. 岡村収・尼岡邦夫(編), *山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京*.
- 沖山宗雄. 1961. デンキクラゲ. *日本海区水産試験研究連絡ニュース*, 126: 3–4.
- 阪本喜代松. 1931. えぼしだひ *Nomeus gronovii* (Gmelin) 日本に分布す. *水産研究誌*, 26 (11): 410–413.
- Senou, H., Matsuura, K. and Shinohara, G. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with Zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum*, 41: 389–542.
- Shinohara, G., Endo, H., Matsuura, K., Machida, Y. and Honda, H. 2001. Annotated checklist of the deepwater fishes from Tosa Bay, Japan. *National Science Museum Monographs*, 20: 283–343.
- 塩垣 優・道津喜衛. 1973. 長崎県野母崎町沿岸の魚類. *長崎大学水産学部研報*, 35: 11–39.
- Suda, Y., Tachikawa, H. and Baba, O. 1986. Adult form of the stromateoid fish, *Nomeus gronovii*, from the north Pacific. *Japanese Journal of Ichthyology*, 33 (3): 319–322.
- 鈴木 清・片岡照男. 1997. 三重の海産魚類. 鳥羽水族館, 鳥羽. 297 pp.
- 内田恵太郎. 1931. 岩波講座生物学 魚類園口類頭索類. 岩波書店, 東京. 115 + 3 pp. + 1 pl.
- 宇井縫蔵. 1924. 紀州魚譜. 紀元社, 東京. 282 + 43 pp.
- 吉野雄輔. 2008. 山溪ハンディ図鑑 13 図鑑日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京. 543 pp.